

中学生になに読もう？

— 詩とことば遊びの絵本 —

中学生に絵本の読み聞かせをしてみようという方を対象とした、テーマごとのリストです。図書に関する記載事項は、書名・編著者名・画家名・訳者名・出版社・大きさ・ページ数・大阪市立図書館書誌ID・通して読むのにかかる時間の目安の順になっています。なお、詩集については、所要時間は記載していません。

大阪ことばあそびうた 島田陽子著 阪口真智子絵 編集工房ノア

22cm 79p 0000195677

耳にやわらかく、口にするとおかしみのある大阪弁でつづられた30編の詩集です。お祭りや橋を詠んだ風物詩は、まるでそこにいるかのようなワクワクした気持ちにしてくれます。テンポのよい文を口に出すと、より楽しさが広がります。



これはのみのぴこ 谷川俊太郎著 和田 誠絵 サンリード 29cm 32p 0070020137 5分

「これは のみの ぴこ」、「これは のみの ぴこの すんでいる ねこの ごえもん」と、ページをめくるたびに言葉が積み重なって、世界が広がっていきます。読んでいくうちにリズムにのって、読み手も聞き手も楽しい時間を共有することができます。

知らざあ言って聞かせやしよう (声に出すことばえほん) 河竹黙阿弥文 飯野和好構成・絵 齋藤 孝

編 ほるぷ出版 22×22cm 36p 0010796424 4分

「知らざあ言って聞かせやしよう。浜の真砂と五右衛門が、歌に残せし盗人の…」盗賊五人組の一人、弁天小僧の名台詞にそって、捕り物の様子と彼の半生が、妖しく迫力のある絵で生き生きと描かれています。歌舞伎調のリズムで、読むと気持ちがよく、聞く人をひきつけます。

しりとりあそびちやいろ (しゃしんであそぼ3) 星川ひろ子、星川治雄著・写真 小学館 20×20cm 24p

0011764766 4分

茶色のものでしりとりあそびをします。最初は「ちやいろ」の「ろ」から始まり、ログハウス、すいしゃ、やきぶた、と続きます。次の言葉のヒントが各ページにあり、クイズのように楽しめます。つながる言葉と写真の美しさが堪能できます。

ぜつぼうの濁点 原田宗典著 柚木沙弥郎絵 教育画劇 27cm 32p 0011250646 6分

昔、ひらがなの国の道端に、濁点だけが置き去りにされていました。擬人化された濁点が主人公で、「ぜつぼう」に長年仕えた濁点が新しい主を見つけるまでが描かれます。ことば遊びの要素が物語にうまく絡み合い、奥深い物語となっています。

力いっぱいきりぎりす —動物の俳句—（めくってびっくり俳句絵本 2）村井康司編 nakaban 絵
岩崎書店 22cm 32p 0011977071 4分

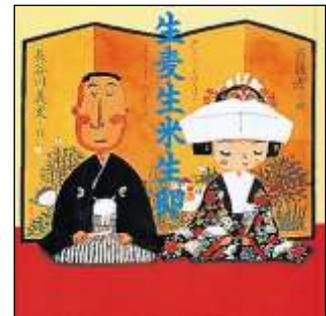
動物が出てくる14句を収録しています。三つ折りページをめくると、見開きいっぱいに、力強く色彩豊かな絵と短い解説とで、一句の情景が味わい深く描き出されています。江戸時代から現代まで、バラエティに富んだ俳句が収められ、子どもから大人まで楽しめます。

月夜のみみずく ジェイン=ヨーレン詩 ジョン=ショーエンヘル絵 工藤 直子訳 偕成社 29cm 32p
0070009082 13分

女の子と父さんは、月夜の雪の森へ、みみずくを探しに出かけます。夜更けの静寂の中、女の子の緊張と期待と胸の高鳴りが手に取るように伝わってきます。詩でつづられ、言葉の響きが心地よい文章と迫力のあるみずみずしい絵で、神秘的な情景が美しく描かれています。

生麦生米生卵（声にだすことばえほん）長谷川義史作・絵 齋藤 孝編
ほるぷ出版 22cm 32p 0011341366 2分

「無理に結んだ結び目六つ」、「隣の客はよく柿食う客だ」など、様々な早口言葉にのせて、少し古風な結婚式の一日が描かれます。味わいのある絵で、ユーモアたっぷりに描かれた物語と、早口言葉とのコラボレーションが絶妙です。



ポケット詩集 田中和雄編 童話屋 16cm 157p 0000709751

宮沢賢治の「雨ニモマケズ」から始まり、まど・みちお、茨木のり子など、著名な詩人による33編の詩集です。自分の存在に疑問をもった時、友だちとの関係に悩んでいる時など、子どもたちの心に寄り添った、味わい深い作品が収録されています。

まさかさかさま動物回文集 石津ちひろ著 長 新太絵 河出書房新社 19cm 61p 0011512194

「いかゆらゆらゆかい」、「だらりごすいするすいすごりらだ」、「ちんぱんじいからかいじんぱんち」など、普段考えもつかない回文が次々と繰り出されます。とぼけた味わいのある挿絵が、おかしさをいっそう後押しします。



まんじゅうこわい（落語絵本 2）川端 誠著・絵 クレヨンハウス 31cm 24p
0010533358 7分

町内の若い衆が集まって、へび、たぬき、くもなど、嫌いなもののお話をします。松つあんの「嫌いなものはないが、怖いものはまんじゅう」という言葉を受けて、皆は彼を驚かすことにしました。言葉のリズムや響きが楽しい古典落語の名作です。

やあ、もしもし！ クリス・ラシュカ著・絵 泉山真奈美訳 偕成社 29cm 39p 0000852497 4分

つまらなそうにしている男の子に、突然友だちから電話がかかってきます。電話のこちら側だけの短いセリフとともに、男の子の気持ちの変化が表情豊かに描かれ、会話が展開していきます。大きく描かれた英語の文字が絵と一体となり、英語での会話の雰囲気がよく伝わってきます。